学　年	教科等	題材名	日　時
第６学年	家庭科	すずしく快適に過ごす住まい方	令和５年７月 14 日（金）６校時

研究主題	自律的に学ぶ子どもの育成
研究内容１の手立て	**【思いや願いをもって課題を設定するための手立て】** 本時では、暑い日の教室で困っていることについて対話をしながら確認することで、「涼しく過ごしたい。」という思いを共有することができるようにする。その後、実際に学校で１番涼しいと思う場所へそれぞれ行き、６年２組の教室と比較させることで、光や音、風等の自然も関係していることに気付くことができるようにする。これらの活動を基に、「これからみなさんは、どんなことができるようになりたいですか。」と問い、学習プリントに記入させることで、よりよく生活するための課題を設定することができるようにする。
研究内容２の手立て	**【自分や家族にとっての生活事象の意味を明らかにするための手立て】** 本題材では、「学校で１番涼しい場所はどこだろう。」と問うと、「北校舎１階。」等と答えるだろう。その後「同じ校舎内ですよね。」と問い返すことで、なぜ同じ校舎内でも涼しさに違いがあるのだろうと曖昧にしていた部分に目を向けることができるようにする。その後、光や空気、音等の自然が涼しさに関係していることを様々な実験をとおして科学的に理解した後に、自分の家庭に合った涼しく快適に過ごすための工夫について考えさせることで、涼しく快適に住まうという生活事象の意味を明らかにできるようにする。

○　子どもの姿からの報告

研究内容１：暑い日に困っていることについて本音で語り合う。

導入

この教室は、暑くて勉強に集中できません。それに比べて、理科室は涼しいです。

分かる。だよね。

暑くて快適ではないと思っている教室に対して、本音で語らせることで、「もっと涼しく快適に過ごしたい。」という思いを共通確認できたり、「この教室は暑いけど、涼しい教室もある。」ということに気付かせたりすることができた。

研究内容２：子どもの発言を問い返すことで、曖昧にしていた部分に目を向けることができるようにする。

展開

６年２組の教室も理科室も、同じ校舎内ですよね。

たしかに、同じ校舎内なんですけど、なぜか涼しさは違うんです。何が関係してるのかな。

研究内容１：学校で１番涼しいと思う場所を調査し、暑い教室と比較させる。

光が入らないように、ブラインドがしてあるな。

３階よりも１階の方が涼しいな。

ここは、風が通っていて気持ちがいいな。

終末

研究内容１：よりよく生活するための課題をそれぞれ設定する。

【ワークシートの言葉】
○　クーラーの力だけではなく、自然の力を借りながら、涼しく快適に過ごすための工夫をしていきたい。
○　理科室よりも涼しくするための方法を見付けたい。
○　家の中が常に 26 度を保てるような方法を見付けたい。

○　考察

今回、子どもが思いや願いをふくらませながら、課題設定をするための手立てや、子どもが曖昧にしていた部分に気付くことができるような手立てについて追究したことで以下のことが見えてきた。

○　子どもが、曖昧な部分に目を向け、自分たちで選択できるような学習活動（涼しい場所の調査活動）は主体的に取り組んでいるように見えるが、そこで何を調査するのかという視点を教師が明確にもち、子どもと確認をしたうえで活動を行うことでよりねらいに迫ることができる。

○　子どもが思いや願いをふくらませるために、本音で語り合う場面で終わるのではなく、「家族のためにも」のような、家庭科の本質ともいえる相手意識に目を向けることが必要だった。

以上のことから、子どもが題材の特質を基に自分に合った課題を設定するためには、教師が視点を明確にし、相手意識をもたせることができるような学習活動を取り入れる必要がある。

御意見・御質問はこちら（研究部アドレス）
miyafuken@cc.miyazaki-u.ac.jp

○　本時の目標

学校での生活を基に、暑い季節の住まい方について問題を見いだし、よりよく生活するための課題を設定できる。

○　本時の指導過程

学習活動及び学習内容	教師のかかわり　（★は評価にかかわるもの）
1　暑い日の教室で困っていることについて話し合い、本時のめあてを設定する。 ○　困っていること ・「外の空気が暑くて、換気をするとすぐに暑くなってしまう。」 ・「場所によって、寒いところもあれば、暑いところもある。」 ・「クーラーが全然効かない。」 ○　本時のめあて すずしい場所を調査して、理由を見付けよう。	○　暑い日の教室で困っていることについて対話をしながら確認することで、「涼しく過ごしたい。」という思いを共有することができるようにする。 ○　子どもから出た「クーラーの設定温度 18 度に下げる。」という考えに対して、賛成か反対かについて対話させることで、人によって感じ方が違うことや、省エネの視点をもつことができるようにする。 ○　「学校で１番涼しい場所はどこだろう。」と問うと、「北校舎１階。」等と答えるだろう。その後「同じ校舎内ですよね。」と問い返すことで、本時のめあてへとつなげることができるようにする。
2　校内で涼しい場所を調査して、涼しいと感じる場所とその理由を見付ける。 ○　学校のなかで涼しい場所とその理由 ・「理科室は水の音がしたな。」 ・「実習生講義室は光が当たりにくいな。」 ・「いちょう学級は１階だからかな。」	○　実際に学校で１番涼しいと思う場所へそれぞれ行き、６年２組の教室と比較させることで、光や音、風等の自然も関係していることに気付くことができるようにする。
3　調査をしたことについて交流し、涼しいと感じる場所とその理由について整理する。 ○　涼しいと感じる場所とその理由 ・光 ・風（空気） ・音	○　「気付いたことをどうやってまとめていこうか。」と問い整理する方法を選択させることで、子どもがこれまでの経験から、「２」を整理するための方法について考えることができるようにする。
4　本題材の課題を設定する。 ○　本題材の課題（例） ６年２組の教室がみんなにとってより快適な場所になるように、光や風等の自然の力も借りながら工夫していきたい。 ○　課題を設定した理由 ・「快適に過ごしたいと思ったから。自然の力がどのように関係しているのかもっと知りたい。」	★　「これからみなさんは、どんなことができるようになりたいですか。」と問い、学習プリントに課題を記入させることで、よりよく生活するための課題を設定することができるようにする。
5　本時のふりかえりを行う。 ○　ふりかえり ・「今までは、涼しく過ごすためにはクーラーをどう使うかしか考えていなかった。今日の授業で、自然の力も関係していることが分かったから、工夫していきたいと思った。」	○　ふりかえりについて発表した後に、「これからの学習でどうやって解決していきますか。」と問い、前題材での学び方を基に考えさせることで、今後の見通しをもつことができるようにする。

○　本時の評価規準

学校での生活を基に、暑い季節の住まい方について問題を見いだし、電化製品だけではなく光や空気、音等の自然の力も関係していることに気付き、よりよく生活するための課題を設定している。　（思考・判断・表現①）【記述分析】